

# 紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況 (2014 年 12 月～2015 年 1 月)



- 1 月 1～8 日頃に、紀伊半島北部で活発な微動活動。
- 1 月 7～12 日頃に、紀伊半島中部でやや活発な微動活動。また、18 日頃から活発化。

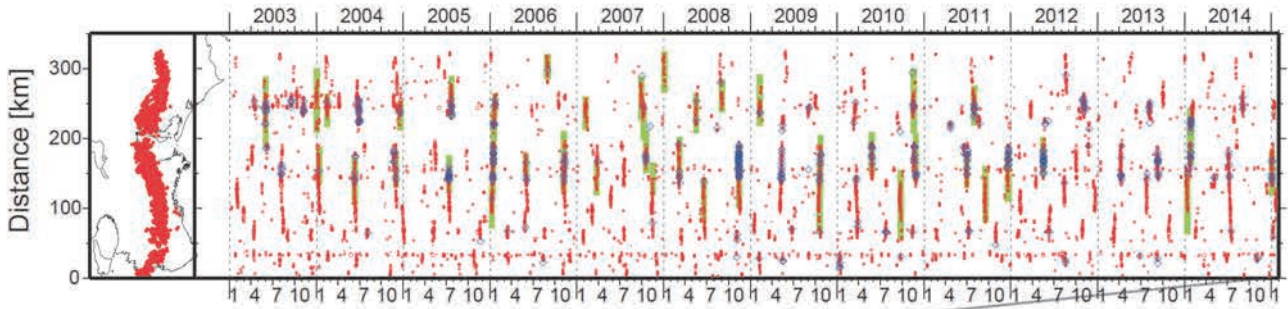
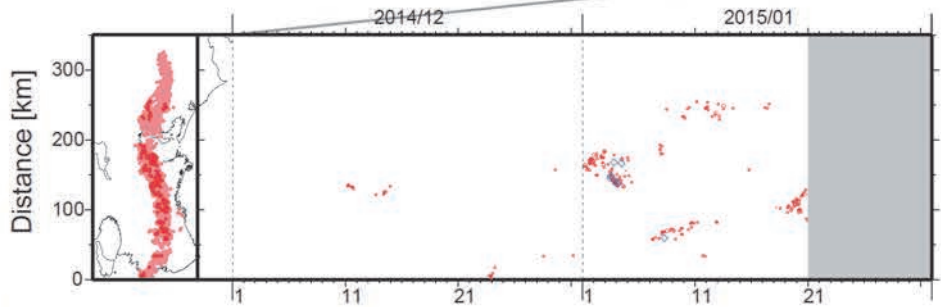


図 1. 紀伊半島・東海地域における 2003 年 1 月～2015 年 1 月 20 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスター処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微



動分布の重心である。青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は 2014 年 12 月～2015 年 1 月の拡大図である。1 月 1～8 日頃には、三重県北部から中部において活発な活動がみられた。この活動は三重県北部において開始し、2 日頃まで北方向に活動域が拡大し、3 日頃からは南方向へと活動域の拡大がみられた。5 日頃より活動は弱まったが、7～8 日頃に三重県北部で若干の活発化がみられた。この領域での顕著な活動は、2014 年 7 月以来となり、この活動に際して、傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている。1 月 7～12 日頃には奈良県南部でやや活発な活動が発生し、主に北東方向への活動域の移動がみられた。1 月 18 日頃からはさらに北東側の領域で活動が活発化している。1 月 8～17 日頃には愛知県中部で小規模な活動が、12 月 11～14 日頃には三重・奈良県境付近において小規模な活動が、12 月 23～24 日頃には和歌山県中部においてごく小規模な活動が、それぞれみられた。

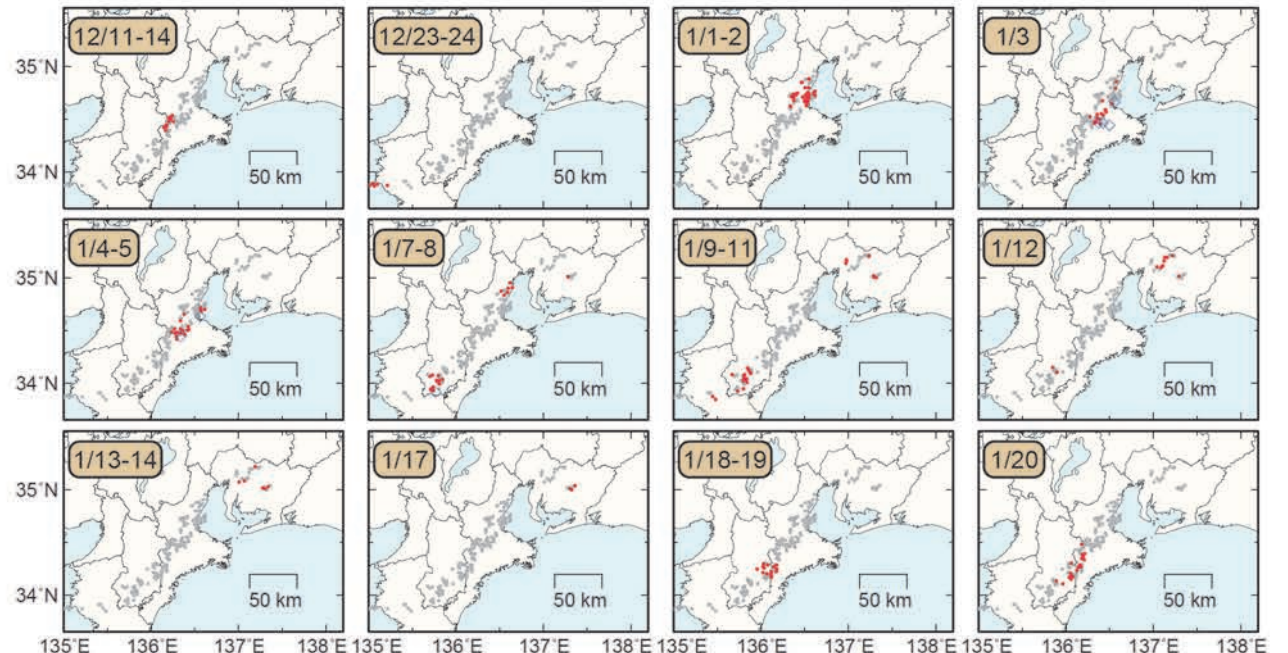


図 2. 各期間に発生した微動分布（赤丸）および深部超低周波地震（青菱形）。灰丸は、図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

図 10 独立行政法人防災科学技術研究所による紀伊半島・東海地域の深部低周波地震活動状況  
1 月 8 日から愛知県で深部低周波地震が発生している

防災科学技術研究所作成